

平成29年8月19日
東京ブロック 運道 慎

平成29年度 U25 ヤングオフィシャルズキャンプ 参加報告書

日 程： 平成29年8月11日（金・祝）～13日（日）
会 場： 埼玉県上尾市上尾運動公園体育館 他
目 的： 将来のFIBAレフェリーならびにトップレフェリーの養成
講 師： 宇田川貴生 氏 / 平育雄 氏 / 吉田正治 氏 / 上田篤拓 氏 / 平原勇次 氏 /
山崎人志 氏 / 加藤蒼樹 氏 / 安西郷史 氏 / 佐藤誠 氏 / 須黒祥子 氏 /
前田喜庸 氏 / 小澤勤 氏 / 増淵泰久 氏（順不同）
参加者： FIBAレフェリー含め、S級審判員を目指す25歳以下の者（男性21名、女性9名）

【8月11日（金）】

時間	予定	担当
13:05-13:20	開校式 研修棟会議室	
	審判委員長挨拶	阿部哲也 氏
	講師紹介	
	オリエンテーション	
13:20-15:00	講義① 研修棟会議室	
	FIBA新レギュレーション	上田篤拓 氏
	3POメカニクス	同上
15:30-16:30	フロアトレーニング 上尾南高校	
	3POの動き（トスアップ、リードなど）	
19:30-20:50	講義② 研修棟会議室	
	ガイドライン	宇田川貴生 氏

【講義①：FIBA新レギュレーション / 3POメカニクス】

FIBA新レギュレーション（上田篤拓 氏）

まず、上田氏よりFIBA新レギュレーション、FIBAライセンス取得のための必要条件、ライセンスの種類、FIBAレフェリーになるために準備すべきことなどについての説明があった。

- ・現在、各国のFIBAレフェリーの数に制限が設けられている
- ・各国のFIBAレフェリーの枠はナショナルチームの実績と日本人審判員の実績（ノミネーションの数など）によって定められる
- ・2年ごとにライセンスの更新が行われる
- ・ライセンスは Black / Green / White の3種類
 - Black：FIBA主催の全ての大会にノミネートされる
 - Green：女性ライセンス
 - White：主にアジア圏内の大会にノミネートされる

また、FIBAレフェリーを志すにあたり、英語でのコミュニケーション能力の向上と強く見せるための体づくりが必要なこと、具体的な目標を設定しそれをもとに活動していくことが重要だと伝えられた。

3POメカニクス（上田篤拓 氏）

今年度より早期FIBAレフェリー育成のため3POでの実技が行われた。上田氏より始めに伝えられたことは、2POと3POは全くの別物であるということ。国内では現在も多くのゲームで2POが運用されてるため、2POと3POを混同して考えないようにとのことであった。3POメカニクスについては以下の内容がパワーポイントの資料とともに確認された。

- ・L-C-Tそれぞれのポジショニングとカバレッジ
- ・ローテーションのタイミング
- ・クルー全員が同じようにメカを理解していること
- ・Mirror the ball
- ・Close down
- ・Switch side
- ・Kick back (Back pedal)
- ・Scan the paint
- ・C stays
- ・Pick the paint

最後に本研修会において特に意識すべきテーマとして、①メカニクスの理解を深めること②大きなインパクトを伴うコンタクトへ笛を入れること③ボイスを使うことの3点が挙げられた。

【フロアトレーニング】

講義①終了後、上尾南高校へ移動しフロアトレーニングを行なった。（3人1組のクルー）

- ・トスアップから各イニシャルポジション到達までの基本的な流れの確認
- ・L-C-Tそれぞれのポジショニングとアングルの確認
- ・ローテーションのタイミング
- ・3分ゲームを各クルー1本

また、上記以外に本研修会においてのテーブルレポートは英語で行うことが伝えられ、加藤氏による英語でのレポーティングの実演も行われた。

【講義②：ガイドライン】

ガイドライン（宇田川貴生 氏）

夕食後は宇田川氏による2017-18ガイドラインについての講義を聴講。ガイドラインの内容を映像を交えながら解説頂いた。

- ・ガイドラインは判定の基準となるものであり、“Clean the Game”のためにある
- ・ガイドラインを正しく運用するためには、正しくメカニクスを理解する必要がある
- ・Hand-CheckingはRSBQに関係なく見えたものを素直にコールする
- ・コーチやプレイヤーへ判定について説明する時は“リーガルガーディングポジション”や“シリリンダー”などルールブックに記載のある言葉を使う
- ・大きなインパクトを伴うコンタクトは必ずコールする
- ・Block or ChargeのケースではOFがラストステップを踏むのが先か、DFが正当なポジションを占めるのが先かを見極める
- ・Protect Shooter：DFがシューターの足元に入るファウル
- ・Kick Out：シューターがシリリンダーの外に足を広げることによって起きるコンタクト

- ・肘を使ったファウルで首より上でコンタクトが起きるケースはUF、DQを考慮する
- ・DQを考慮する際、「振りかぶる動作」「インパクト」「振り下ろす動作」のうち2つ以上が該当するかどうかを判断材料とする
- ・トラベリングは「明らかな」軸足の踏み替え、ずれ、突き出しの遅れをコールする

【8月12日（土）】

時間	予定	担当
8:45-9:15	女性審判員向けオリエンテーション	須黒祥子 氏
9:30-17:15	3PO実技 ※第1試合は男性のみ	
	4人ローテーション	全講師
19:00-19:40	講義③ 研修棟会議室	
	3x3レフェリーについて	加藤誉樹 氏
	プレゼンテーション	同上
19:40-20:40	映像研修	上田篤拓 氏
	（映像解析の方法、実際の試合映像を用いた解析など）	
20:40	閉講式	

【3PO実技①】

対戦：小山台 - 春日部（男子） / 小山台- 朝霞（男子）

担当：長谷川雄是（北海道） / 相澤慎之介（秋田県） / 山本恵一（山梨県） / 運道慎（東京都）

講師：吉田正治 氏

初めての3POの実践ということもあり、前半はローテーションのミスが多かった。TがLのSwitch sideに気づかずDouble Trailsの状態が頻繁に起きてしまった。また、全体的にメカニクスの方ばかりに意識がいきってしまい判定が薄くなってしまう時間帯もあった。しかし後半になるにつれて徐々に修正することができた。

個人的な部分ではLでMirror the ballができていなかったことと、いくつかのトラベリングをコールできなかったことが課題であり、良いポジションと良いアングルがより良い判定に繋がるということを吉田氏よりご指摘頂いた。

- ・Mirror the ball（Close down positionにステイしすぎない）
- ・L-C-TそれぞれのWorking Areaの中で良いアングルをキープできるようにポジションをアジャストする

【3PO実技②】

対戦：都立足立 - 春日部（男子） / 朝霞 - 春日部（男子）

担当：山本恵一（山梨県） / 運道慎（東京都） / 田中沙紀（愛知県） / 山田将樹（京都府）

講師：平原勇次 氏

全体では1試合目よりパートナーの位置を確認しながらゲームに臨むことができたが、まだDouble Trailsの状態が多かった。3POの基本的な動きは経験を積むことで形にすることができると、今は基本のメカニクスの理解を深めなければいけないということを平原氏より課題として挙げて頂いた。

自身の課題は、プレーを判定する際に誰のプライマリーのプレーなのかを考えて判定すること。自分のプライマリー外のプレーを判定する際は事実と違う見え方になっている場合もあるため、十分な確認のもと慎重にコールすべきだとして指摘頂いた。

また、トランジションの最中であってもクルーとアイコンタクトを交わすことでコミュニケーションを取れるので、そのような意識も必要であった。

- ・ どのエリアからスタートするプレーで誰のアングルでコンタクトが起きているのかを考える
- ・ クルーとのコミュニケーションの取り方（ボールがライブの時のアイコンタクト）

【講義③：プレゼンテーション / 3x3レフェリーについて / 映像研修】

プレゼンテーション（加藤誉樹 氏）

実技を終え、夜間は始めに加藤氏によるプレゼンテーションについての講義を聴講。現在プレゼンテーションはゲームコントロールの一部となっており、メカニクスや判定と同様に取り組むべき項目の1つであることが伝えられた。

- ・ トップリーグの審判員などエリートレフェリーの立ち振る舞いをイメージする
- ・ 自分がこの試合を担当しているという責任感 / 言葉によるコミュニケーション / フィジカル / シグナル
- ・ "I'm in charge"という心構えがコントロールに繋がる
- ・ 審判員は"Service Provider"とも呼ばれるため、謙虚で誠実な姿勢も必要
- ・ 人の印象の55%は"Body Language"が占める
- ・ 強さ / 決断力 / 親しみやすさ
- ・ ルールブック、マニュアルに記載された通りのシグナルを使う
- ・ 自信がファウルだと決断し判定をしたら、それはファウルである

自分が思っている以上に試合中の審判員の立ち振る舞いはプレイヤー、コーチ、観客へ何かしらの印象を与えているということを再認識した。オンザコートだけではなく、日々の生活の中でも自分の体の管理など意識して取り組んでいこうと感じた。

3x3レフェリーについて（加藤誉樹 氏）

- ・ ルールは5対5と異なる
- ・ FIBAのライセンスは5対5とは別である（FIBAのキャンプに参加しライセンスを取得する）

映像研修（上田篤拓 氏）

最後に上田氏による映像研修が行われ、どのように映像を解析するのかがレクチャーされた。そこで1つのゲーム、1つのプレーに対してどれだけ細部までこだわって観られるか、そしてその情報を蓄積していかに関自分のものにできるかが大切であるということが伝えられた。

- ・ 自分がトライしたことを振り返るのに1番良い方法が映像を観ること
- ・ 自身の癖や弱い部分を見つけ、修正する（立ち振る舞いかはどうか、なぜその時動いたのか、

自分がその時しようとしたことと実際の映像でのアクションとのギャップはどうか)

- ・何かトラブルがあった場合はその前、もしくは前の前のプレーでその起因となるものが見つかる場合が多い
- ・解析する時に観るべきポイント (Points difference, Who are on the court?, What kind of play would be the first option?, What the crew talked about at the conference?, etc.)

トップリーグではどのように映像を解析してそれをいかに情報として蓄積しているのかを知ることができ、今後の自身の映像での振り返りにも活用していきたいと感じた。また、自らの失敗をデータとして蓄積し、確認することによって同じミスを繰り返さないことにも繋がるので、今後も映像解析は積極的に行なっていきたい。

【8月13日(日)】

時間	予定	担当
9:30-15:30	3PO実技	
	4人ローテーション	全講師
15:30	終了・解散 ※12:30頃一旦終了。復路の状況により随時解散	

【3PO実技③】

対戦：鴻巣 - 上尾鷹の台（女子） / 元石川 - 都立駒場（女子）

担当：長谷川是雄（北海道） / 慶野芽以（栃木県） / 運道慎（東京都） / 林佑亮（鹿児島県）

講師：山崎人志 氏

2試合ともDFがバックコートからプレスをかける場面が多く、アウトレットパスからボールキャリアの段階でのダブルチームが頻繁に起きるようなゲームだった。その中でボールキャリアの際のDFに責任のあるコンタクトをコールできていないケースがいくつかあったので、もっとTとCが協力してバックコートでのプレイを判定をするべきだった。

メカニクスの部分では1日目よりクルーでコミュニケーションを取りながらゲームに臨むことができた。ダブルホイッスルになった場合も、お互いアイコンタクトを取ってどちらのプライマリーのプレイかを確認してレポートに行くことができた。

- ・バックコートに3ペア以上いる時のTとCの協力
- ・マジックタイムの活用をもっと意識する
- ・Hand-CheckingはRSBQに関係なくコールする

【3PO実技④】

対戦：所沢西 - 都立足立（男子） / 朝霞 - 春日部（男子）

担当：田中沙紀（愛知県） / 山田将樹（京都府） / 慶野芽以（栃木県） / 運道慎（東京都）

講師：加藤誉樹 氏

今日はメカニクスだけではなく判定の部分にもこだわろうと試合前に吉田氏より伝えられ、「良いポジションと良いアングルがより良い判定に繋がる」という前日の吉田氏の言葉を意識してゲー

ムに臨んだ。課題としてはプレイのプライマリーをもっと考えるということが前日同様に挙げられる。トラベリングに関しても、しっかりと成立を確認してコールすることと、その成立は誰が確認すべきなのかを考えるということを平原氏よりご指摘頂いた。また、加藤氏より何かミスをしてしまった後の立ち振る舞いについてアドバイスを頂いた。

- ・ネクストボーナスの確認、ラストプレイのクロック管理、ファウルをされたプレイヤーの確認
- ・立ち振る舞いはAthleticに、かつRudeにならないように
- ・テーブルレポートについて：

A地点（コールした場所） / B地点（レポートをする場所） / C地点（次の自分が行くべき場所）

B地点からC地点への移動を短くするためのポジションでレポートをすること

- ・ Self Talk / Now Here / Always Thinking

【本研修会に参加して】

今回、U25 ヤングオフィシャルズキャンプに参加させて頂き、全国から集まった参加者と共に非常に有意義な3日間を過ごすことができました。日頃は2POでの活動がほとんどである私にとって、今回のように3POを基礎から学べたこと、さらにトップリーグで活躍される講師の方々よりレクチャー頂けたことは、とても貴重な経験となりました。また、全国各地の同世代の仲間と3日間交流し、彼らからも多くの刺激を受けました。この研修会を通して学んだことを自身の財産とし、今後の目標を具体的に設定して日々の自己研鑽に努めていきたいと思えます。

最後になりますが、本研修会参加にあたりご指導いただきました講師の皆様はじめ、ご推薦頂きました久保ブロック長、JBA審判部の皆様に厚く御礼申し上げます。そして本研修会開催に際して、様々なご準備、当日の運営、お気遣いを頂きました埼玉県協会の皆様にも深く感謝致します。ありがとうございました。